

第 39 回 Jネット勉強会報告

—葛西臨海水族園・SHIRASE5002・サッポロビール千葉工場見学—

藤沢勝一郎

今回の勉強会は 9 月 20 日(木)、参加者は男性のみ 6 人。

「葛西臨海水族園」： 昨年は台風予想の影響で参加者 4 人(サッポロビール工場は 3 人)だったためのリベンジ企画です。

この日は、曇りのち雨のあいにくの天気でしたが台風ではないので、見学者には遠足で来たという小学生の姿が目立ちました。

展示魚類などは、昨年とあまり変わりありませんでした。

見学後の昼食は、館内レストランが混んでいたため、次の見学先のある JR 新習志野駅近くのレストランで、テニスの大坂なおみ選手が食べたいと言っていた「カツカレー」等、全員完食した。

「SHIRASE5002」： この船は、就航 1983 年、退役 2008 年 7 月。全長 134m、幅 28m。排水量 11,600ton。

南極観測船としては、「宗谷」、「ふじ」に続く 3 代目で、現在就役している 4 代目の「しらせ」は、砕氷能力等すべてにおいて性能が向上しているとのこと。

「SHIRASE5002」が、暴風雨圏で経験した最大横揺れ角度は左に 53 度、乗船者達は生きた心地がしなかったのではないかと思っただが、転覆することなくよく復元出来たものだと感心した。

操舵室は海面から 20m、ビルの 5 階に相当する高さだという。操舵手席、船長専用の赤い椅子、航海の無事を願っての神棚もある。

そういえば、原子力船「むつ」にも神棚があった。

船長室、士官室、1 室 6 人の乗船者部屋は、第 14 回勉強会(平成 23 年)で見た日露戦争時の旗艦「三笠」のものと比べたら調度品、ベッド等すべてに雲泥の差がある。しかし、ブリッジや急勾配の階段はそれほどの差はなかった。

航海は長く単調なため、曜日を忘れないよう金曜日の夕食は「カレー」と決められており、乗船員の食事代は国費、風呂は海水を電気で沸かしたもの、マージャンは禁止とのこと。

甲板にはヘリコプターの離発着用スペース、運動不足を解消するため 1 周 200m ほどのランニングも出来るようになっている。

「サッポロビール千葉工場」： 昨年の勉強会と同様、1 時間ほどビールが出来るまでの説明と見学。その後、上手なビールの注ぎ方のレクチャーを受け、ヒヨコ豆等の入ったおつまみ 1 袋付きで出来立ての生ビール、黒ビール等を含め 1 人 3 杯までの試飲 OK となる。

結果、3 杯飲めたのは 1 人だけ。いつもなら試飲後もう少しということで、工場内レストランで焼肉、ビールとなるのだが昼食の「カツカレー」の量が多かったためか、満腹すぎて今日は誰も云わない。

工場からのバスで、JR 津田沼まで送ってもらい、解散となった。珍しいこともあったもんだ。

工場からのバスで、JR 津田沼まで送ってもらい、解散となった。珍しいこともあったもんだ。

